

第22回 青森県総合教育会議

日時：令和6年8月29日(木) 9:00～

場所：青森県庁南棟2階 第3応接室

次 第

1 開 会

2 知事あいさつ

3 議 事

- (1) 青森県立高等学校魅力づくり検討会議の状況について
概要説明（高等学校教育改革推進室長）
- (2) 青森県教育改革有識者会議の状況について
概要説明（総合政策課長）

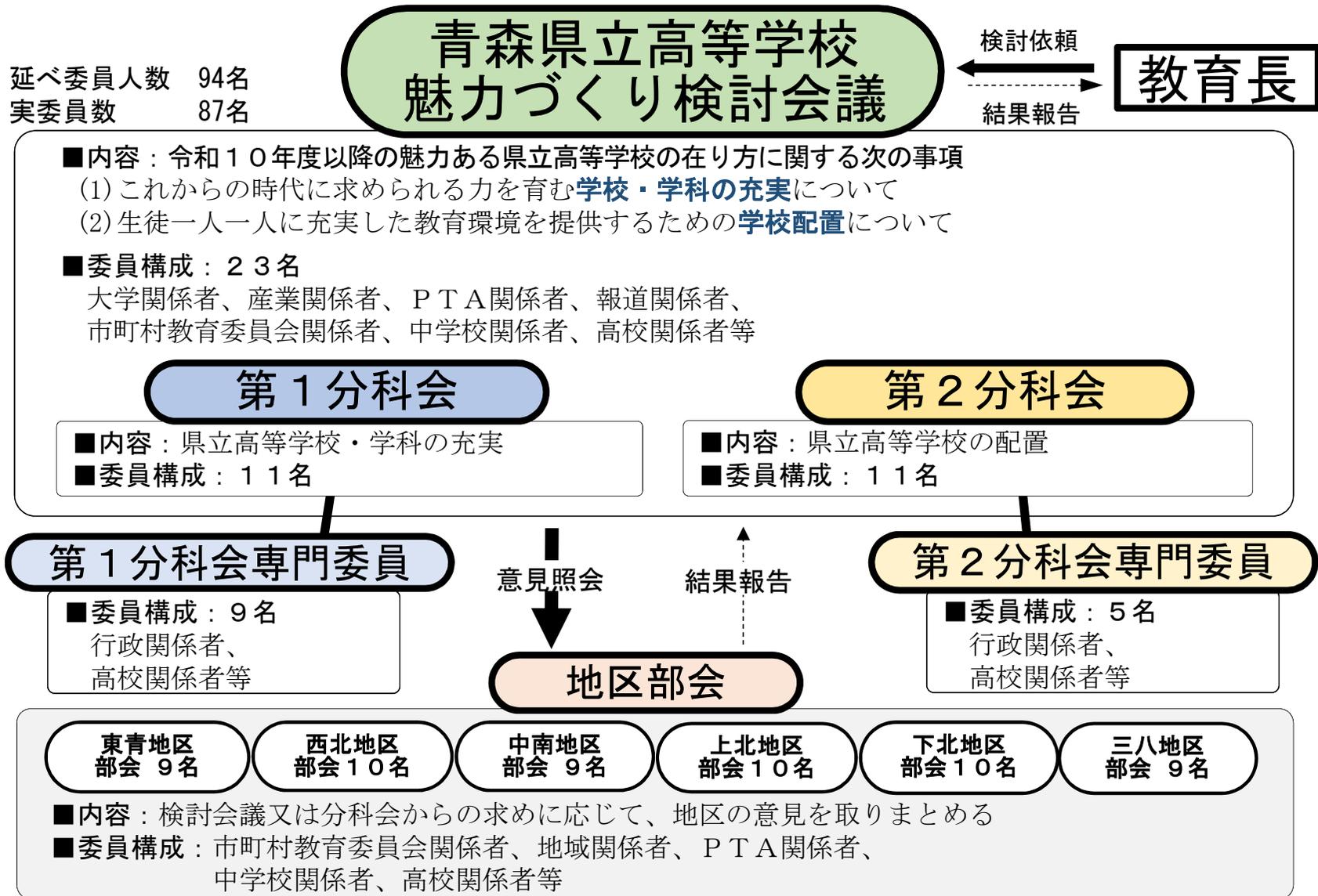
4 閉 会

青森県立高等学校魅力づくり検討会議 における検討状況について

令和6年8月29日
教育庁高等学校教育改革推進室

1 青森県立高等学校魅力づくり検討会議の状況

令和10年度以降の魅力ある県立高等学校づくりに向け、青森県立高等学校魅力づくり検討会議において検討を進めているところ。



2 魅力づくり会議における検討状況

(1) 魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方

本県のこどもたちが、変化し続ける社会に対応するために必要となる力を身に付け、未来を切り拓き、豊かな人生を送るとともに持続可能な社会の創り手となることができるよう、学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための「魅力ある高等学校づくり」を更に推進し、こどもたちのウェルビーイングの向上を目指す。



①これからの時代に求められる力を身に付けた人財の育成

②これからの時代に求められる力の育成

③高等学校に求められること

2 魅力づくり会議における検討状況

(1) - ①これからの時代に求められる力を身に付けた人財、②これからの時代に求められる力

①これからの時代に求められる力を身に付けた人財

青森県や地域の発展に
貢献できる人財

イノベーションを創出する
志や創造性を持った社会を
牽引できる人財

職業の多様化に対応で
きる人財

...

②これからの時代に求められる力

不易な力

知・徳・体の調和の取れた生きる力

主体性、コミュニケーション能力

自己肯定感、多様性を尊重する心、
地域・郷土を愛する心



こどもたちの夢や志に応じた力

課題発見・解決する力、地域を支える心
大志を抱き世界へ挑戦する心、
主体的に未来社会を切り拓く力

変化の激しい社会で求められる力

変化に対応するための柔軟な思考力、
新たな時代をつくる力

2 魅力づくり会議における検討状況

(1) - ③高等学校に求められること

③高等学校に求められること

生まれた場所や家庭環境にかかわらず、全てのこどもたちに一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育の提供

全てのこどもたちが安心して学べる環境

スクール・ミッション等を踏まえた各校の特色化や、高校、小・中学校、特別支援学校、大学、地域等の多様な主体等との連携・協働による授業、部活動、地域活動等の教育活動全体での更なる魅力化

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実に向けた授業改善等のカリキュラム・マネジメントの適切な実施や、探究的な学び、学科横断的な学び、STEAM教育など教育活動の充実

学校・学科の更なる魅力づくりに向けた教育制度等の充実

2 魅力づくり会議における検討状況

(2) 学校・学科の充実の方向性 - ①高等学校の魅力づくり

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実や、誰一人取り残さないきめ細かな教育につなげていくため、教育活動の更なる充実を図るとともに、各校の教育活動の深化に向けた多様な主体との連携を推進。

教育活動の更なる充実

- ・ 各校の特色を生かした取組の推進
(本県の課題解決に関するプロジェクト)
- ・ ICTの活用による教育活動の充実
(対面とオンラインの効果的な活用)
- ・ 特別な支援を要する生徒への教育の充実



多様な主体との連携・協働

- ・ 高校間・学科間の連携
(各校の主体的な連携)
- ・ 小・中学校との連携
(コミュニティ・スクールの活用)
- ・ 大学等との連携
(遠隔教育や学外の学修の単位認定)
- ・ 地域や関係機関等との連携



2 魅力づくり会議における検討状況

(2) - ②学科等の魅力づくり

進路志望の多様化や時代・教育環境の変化等に対応するため、知識・技術の刷新や土台となる基礎的・基本的な知識・技術の習得に加え、新たな時代を見据えた学科改編・新設の検討や生徒の学習意欲向上の一体的な実施により各学科の魅力づくりを推進。

全日制課程

- ・ 普通科等
(各校の強みを生かした特色化)
- ・ 職業教育を主とする専門学科
(地域や関係機関等と連携した実践的な学び)
- ・ 総合学科
(多様な教育課程の編成等による特色化)

定時制・通信制課程

- ・ 多様な学びの提供
(多様な学びができる教育課程の編成・発信)
- ・ 生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実
(専門知識を身に付けた教員の育成、スクールソーシャルワーカー等による支援体制)
- ・ 関係機関等との連携
(県や企業、他校などと連携したキャリア教育)

2 魅力づくり会議における検討状況

(2) - ③学校・学科等の魅力づくりに向けた教育制度

生徒の多様なニーズを踏まえるとともに、生徒数の減少も見据えながら効果的な教育制度の活用を検討。

中高一貫教育、全日制普通科単位制等

- 既導入校における教育活動の充実
- 取組状況を踏まえた他校における導入の在り方の検討

「多様な学び」を提供するための学科の充実や、主体的・協働的に学ぶ意欲を喚起するための「多様な学び方」を提供できる学校の充実、効果的な教育制度の活用の一体的実施により、生徒それぞれが、自らの夢や志に応じて成長できる「魅力ある高等学校づくり」を進める。

2 魅力づくり会議における検討状況

(3) 学校配置の方向性 - ① 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

- ・ こどもの数が減少している中、全てのこどもたちに一定水準を満たした教育を提供することによるウェルビーイングの実現と、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供。
- ・ こどもたちがこれからの時代に求められる力を身に付け、可能性及び能力を最大限に伸長することができる教育環境を提供。

高等学校教育を受ける機会の確保

- ・ 全ての生徒が夢や志に応じて高校を選択できる環境づくり
- ・ 地域と一体となった人財育成が進められてきたことを踏まえた学校配置
- ・ 地理的要因や家庭環境等により高校進学に支障が生じないような通学環境への配慮

充実した教育環境の整備

- ・ 高校に求められる教育活動の更なる充実に向けた教育環境の提供
- ・ 様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへの対応
- ・ 高校間連携や地域等との連携の更なる推進による高校教育の質の確保

2 魅力づくり会議における検討状況

(3) - ②魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

学校配置の観点を考慮し、**高校を取り巻く環境の変化を見据えながら、中・長期的な視点で県立学校全体の在り方を検討。**

全日制課程

- **6地区ごとの学校配置**…教育の機会の確保や通学環境等を考慮
- **学校規模の標準**…教育の質の確保、学校や地域等の実情、規模別の課題、こどもの数の減少等を考慮
- **小規模校の配置**…入学状況や中学校卒業予定者数の推移、他校への影響、多様な生徒との関わりの中での学び等を考慮
- **地域校制度**…教育の機会・質の確保や通学環境等を考慮
- **小規模校（地域校）における教育環境の充実**…多様な主体との連携・協働やICTの効果的な活用等

定時制課程・通信制課程

- **学校配置の継続、募集人員見直し**…様々な事情を抱えた生徒への対応を考慮
- **学校配置の拡充、全日制課程と合わせた配置**…入学者数の増加等への対応を考慮

2 魅力づくり会議における検討状況

(3) - ③学校配置と合わせて検討すべき事項

- ・本県の産業構造を踏まえ、生徒の進路志望の多様化や高校教育を取り巻く環境の変化を見据えた**再編の方法、学級編制、通学手段の確保・通学支援**を検討。
- ・魅力ある高校づくりの検討・実施に当たっては、**地域等から理解と協力を得られるよう**取り組む。

再編の方法等

- ・教育的効果を踏まえた**学科の統合、異なる学科の高校の統合**
- ・新たな時代を見据えた**学びの提供に向けた学科の改編・新設等の統合以外の方策の検討**

学級編制

- ・現状よりも少ない人数での**学級編制**や、**他校への拡充**を実施
- ・各校の特色に応じた**学級編制**や、**学校規模と一体的な検討、全校一律ではなく段階的な実施**も検討

通学手段の確保・通学支援

- ・市町村や交通事業者の協力を得ながら、**公共交通機関の利便性向上、スクールバスの運行や寮整備、通学費や下宿代等の補助**などの対応を検討

地域等から理解と協力を得る取組

- ・これまでと同様の方法で**計画策定等**
- ・**地域の理解を得られるスケジュールでの意見交換の実施**
- ・統合する場合、**統合校の開設に当たっては、計画策定から一貫性を持って対応**

3 魅力づくり会議における今後の検討スケジュール

R5.5.29	魅力づくり会議設置、第1回検討会議（全体会）
R6.2.28	第1分科会から検討会議へ報告 （学校・学科の充実の方向性）
R6.9.2（以下予定）	第2分科会から検討会議へ報告（学校配置の方向性）
R6.9～R7.2	各分科会報告内容を踏まえ、更なる検討
R7.2	検討結果報告書の作成 検討会議より県教育長へ報告書を提出



こども
まんなか青森

資料 2

青森県教育改革有識者会議 の状況について

令和 6 年 8 月 2 9 日

青森県総合政策部総合政策課

＜参考＞青森県教育改革有識者会議委員一覧

常任委員

委員名	所属等	役職
大谷真樹（おおたにまさき）	知事参与、インフィニティ国際学院学院長	議長
森万喜子（もりまさこ）	元北海道公立中学校長	副議長
合田哲雄（ごうだてつお）	文化庁次長	顧問
三戸延聖（さんのへのふまさ）	弘前大学教育学部教職実践専攻・教職大学院教授	
日野田直彦（ひのだなおひこ）	一般財団 活育財団 代表理事	
平井聡一郎（ひらいそういちろう）	合同会社未来教育デザイン代表社員	
藤岡慎二（ふじおかしんじ）	産業能率大学経営学部教授、(株) Prima Pinguino代表取締役	
森山達央（もりやまたつお）	株式会社スパイスアップ・アカデミア代表取締役	

特別委員

委員名	所属等
生重幸恵（いくしげゆきえ）	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長
江川和弥（えがわかずや）	フリースクール全国ネットワーク代表理事
木村泰子（きむらやすこ）	大阪市立大空小学校初代校長
讃井康智（さぬいやすとも）	ライフイズテック株式会社取締役、最高AI教育責任者（CEAIO）
澤田真由美（さわだまゆみ）	株式会社先生の幸せ研究所代表取締役
島康子（しまやすこ）	Yプロジェクト株式会社代表取締役
陳内裕樹（じないひろき）	内閣府クールジャパンプロデューサー、東北芸術工科大学客員教授、日本薬科大学特別招聘教授
住田昌治（すみたまさはる）	学校法人湘南学園学園長
橋本大也（はしもとだいや）	デジタルハリウッド大学教授
本間正人（ほんままさと）	京都芸術大学客員教授、NPO学習学協会代表理事

本年度議論する論点 – 令和5年度提言より抜粋 –

1. 小・中・高・特別支援における授業の在り方

- 教職員と子どもたちとの対話や子どもたちが互いに学び合うといった主体的な学びが実現できるような授業の在り方の検討
- イエナプラン教育*の導入など異学年融合型の年齢集団に縛られないカリキュラムの検討や全国でオリジナリティを発揮しているカリキュラムの事例研究の推進

*イエナプラン教育：ドイツで始まりオランダで広がった、一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育のこと。

2. 県立高校における入試制度の在り方

- 青森県のめざす教育に合わせた県立高校における入試制度の在り方の再検討
- 本来教育課程外の部活動の記載欄や生徒の出欠日数欄等といった、調査書（内申書）の記載内容の大幅な見直し

3. 人口減少下における学校統廃合を含めた県立学校の在り方

- こどもの数が減少する中での学校統廃合など、これからの県立学校の在り方の検討
- こどもの学びの質を保障するための複数校でのオンライン授業やデジタル教材等の活用推進
- 個別最適な学び、グローバル化に対する取組、青森県の特徴を生かした探究学習、実業系高校のカリキュラムマネジメントなど、めざす教育のフラッグシップモデル校の指定を進め、各校の特色化促進
- 県立中高一貫校の地方における教育効果など、他県の事例研究の推進（例：広島県立広島叡智学園中学校・高等学校、東京都立立川国際中等教育学校・附属小）

青森県教育改革有識者会議の開催経過等（令和6年度）

- 青森県教育改革有識者会議では、今年度議論する3つのテーマを中心に、委員による講演や会議での議論を行っている。第2回会議では、青森県立高等学校魅力づくり検討会議事務局から、「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」の検討状況等についてご報告いただいた。
- また、県内外の事例の収集や、教職員及び子どもを対象としたアンケートも実施。
- 会議はこれまで7回開催し、現在は、アンケートの分析作業を進めているところ。今後も引き続き、事例調査やアンケート結果等も十分に踏まえながら、知事への提言に向けて、会議での議論を深めていく。

会議

- 第1回 4月10日（水）令和6年度の議論のテーマ及びスケジュール等に係る意見交換
- 第2回 4月22日（月）報告「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」の検討状況等について
（青森県立高等学校魅力づくり検討会議事務局）
講演「教育の魅力化による地域の活性化～全国に広がる高校魅力化プロジェクト～」
（藤岡慎二（株）Prima Pinguino代表取締役）
- 第3回 5月27日（月）北海道視察等に係る報告及び意見交換
- 第4回 6月10日（月）講演「子どもの事実から人権を視点に学校づくりを問う」
（木村泰子 大阪市立大空小学校初代校長）
- 第5回 7月 2日（火）提言の方向性についての意見交換
- 第6回 7月22日（月）講演「AIネイティブな子どもたちの可能性を伸ばす教育とは」
（讃井康智 ライフイズテック株式会社取締役 最高AI教育責任者）
- 第7回 8月 9日（金）講演「教員と学校の学習力を高めるために」
（本間正人 京都芸術大学客員教授、NPO学習学協会代表理事）

青森県教育改革有識者会議の開催経過等（令和6年度）

県内外の事例収集

《青森県外》

○高校の魅力化

R6.5.13-14 北海道大空高校、北海道三笠高校

→（大空）2高校を統合した町立高校、定期テスト・時間割・固定担任制なし、探究的な学び・社会と接続した学びを重視

→（三笠）市立の単科高校（食物調理科）、子どもたちが学びたくなる仕組み・授業づくり、市を担う人材の育成を目指す

○学びの多様化学校（不登校特例校）、イエナプラン認定校

R6.7.17 学校法人ろりほっぷ学園ろりほっぷ小学校

→廃校の跡地を利用しR5に開校、独自の教育課程（幼児教育×イエナプラン）、フリースクール併設

○公立の小中高一貫校

R6.7.18 東京都立立川国際中等教育学校・附属小学校

→高校3年生を見据えた小学校からのカリキュラム編成、独自の教材作成、活発な異学年交流、海外大学での研修の実施

《青森県内》

○教育DX

R6.6.25 中泊町立薄市小学校、五所川原市立五所川原小学校

→メタバースを活用した英語教育、1人1台端末を活用した授業展開、校務DXの推進

○全国募集導入校

R6.8.19 県立三戸高等学校

→創造力で地域課題解決を目指す「クリエイティ部」、地域と連携したプロジェクト活動

○小中一貫校（4・3・2制の導入による滑らかな接続）

R6.8.19 小中一貫三戸学園三戸小学校・三戸中学校

→小中学校間の相互乗り入れ授業の実施、町独自の教科「立志科」、1年生から英語科導入

青森県教育改革有識者会議の開催経過等（令和6年度）

青森県の教育に関するアンケート

- **対象：県内の小・中・高等学校・特別支援学校に在籍する ①教職員 ②小学校5年生～高校3年生**
- **集中実施期間：①教職員 7月22日（月）～8月15日（木）
②児童生徒 7月22日（月）～9月8日（日）**
- **主な調査項目：**
 - ①**教職員**
 - ・教育改革有識者会議の認知度
 - ・昨年度と比較した業務改善の動きの有無とその内容
 - ・学校内に自由に対話する雰囲気や意見や提案を受け入れてもらえる雰囲気があるか
 - ・地域との連携
 - ・授業の在り方・入試制度の在り方・県立学校の在り方についての考え
 - ②**児童生徒**
 - ・学校が楽しいかどうかとその理由
 - ・心理的負担やストレスになっていること
 - ・悩みや不安、不満について相談する相手がいるか
 - ・授業について感じていること
 - ・学校生活の中で嬉しいと感じる時
 - ・自由に学校をつくれるとしたらどんな学校をつくりたいか
- **回答についてはAIテキストマイニングを活用し、分類・分析を行っているところ。結果は9月に公表予定。
（回答数 ①教職員：3,718名（8/15現在）、②児童生徒：実施中）**

青森県教育改革有識者会議スケジュール

令和6年度

(月)

